

平成 28 年度国立公園満喫プロジェクト 第 2 回霧島錦江湾地域協議会 議事概要

日 時：11 月 22 日（火） 13 時～14 時 30 分
場 所：飯野地区コミュニティーセンター（えびの市）
出 席：別紙のとおり

<議 題>

- (1) ステップアッププログラム 2020 作成の進捗状況について
- (2) ステップアッププログラム 2020（案）について
- (3) 今後の進め方について
- (4) 意見交換
- (5) その他

<議事概要>

○九州地方環境事務所長挨拶

地震、大雨等、災害が色々なところで起きている中、大事なのは「多様であること」と「つながりをもつこと」。インバウンドとなると全世界から多様な人が来るということになる。この地域にも同様に多様な人材があるので、相互につながりを持つことで、満喫プロジェクトが地域の魅力を 2 倍、3 倍と向上させるものとなり、地域の持続的発展のきっかけとなればと思っている。本日は忌憚のない意見をお願いしたい。

○宮崎県環境森林部長挨拶

大阪商人旅日記（薩陽紀行）というものがある。これは、南九州を 1 周まわった江戸時代の商人が記した旅日記である。まさに満喫プロジェクトで取り組もうとしていることがこの時代からされていた、この時代から魅力的な地域であったということがよく分かった。皆さんと一緒に地域の魅力を向上させる計画づくりが進められればと考えている。

○えびの市長挨拶

えびの市で開催いただき感謝。地域間の連携の大切さは感じており、本プロジェクトでは県境を越えての取組となる。全員の気持ちが一いつになれば大きな成果につながるはず。今回は具体的なプログラム案も出てきているので、有意義な会議になればと思う。

(1) ステップアッププログラム 2020 作成の進捗状況について

(2) ステップアッププログラム 2020（案）について

(3) 今後の進め方について

(事務局) (1) ～ (3) まで資料に基づき説明

(4) 意見交換

(鹿児島市) 別紙 1-1 (アクセスルート位置図) に宮崎駅が入っていないのはなぜか。同資料で鹿児島 IC 以外の市内の IC について示されていないのはなぜか。また、別紙 2-1 (ビューポイント位置図) に桜島下側にマークがないのはなぜか。

(事務局) アクセスルートについては、協議する上で主要なところを示している。追加等あれば申し出ていただきたい。別紙 2-1 指摘箇所は訂正して全エリアを示すようにする。

(南大隅町) 別紙 1-1 に佐多地域へのアクセスルートを示していただきたい。

(事務局) 事務局でもとても悩んだ部分。具体的な場所は後日調整させていただきたい。

(霧島市) 別紙 2-2 は市町の意見が入った上で示されたものなのか。

(事務局) ヒアリングを 2 回行った上で作成している。修正・追加があれば今でもご意見いただければ検討したい。

(霧島市) 霧島地域は 4 つのエリアが示されているが、栗野岳エリアも積極的にビューポイントへ追加いただきたい。高速 IC から近くアクセスもよいこと、日本トップレベルの彫刻の森 (正式名: 霧島アートの森) があることが理由。すでに国内外からも多くの人に来ており、インフラも整っていることから、インバウンド増を目指す本取組にこの地がビューポイントとして入っていないのはおかしい。活かしていくべきと考える。

(湧水町) 1.現状分析 (1) 当国立公園の特徴における桜島・錦江湾奥地域の説明について、桜島・錦江湾奥地域は始良カルデラ南縁ではない。

(事務局) 「始良カルデラ南縁に位置し、」はあとに出る桜島につながる。ここでの読点を削除する。

(湧水町) 始良、阿多とカルデラについては記載があるが、加久藤カルデラや小林カルデラの記載はなぜないのか。宮崎、鹿児島の連携が重要ということは常々感じていること。それを踏まえても、両カルデラについての記載はあるべきではないのか。

(事務局) 現在のステップアッププログラム案では海域カルデラを示すのみであったが、公園の特徴には霧島にかかる両カルデラについても記載したい。連携についてはおっしゃるとおり。本協議会事務局には両県も入っており、良い効果が出せるよう、連携して取り組む予定。

(始良市) 目標値が 20 万人というのはすごい数だと思う。本国立公園は南北に非常に大きなエリア。ぜひ歩いて見て回って感動するというプログラムを検討いただきたい。錦江湾の海岸線など魅力的と思う。そういった風景が世界の国立公園に近いところ

で、目標達成に向けても重要な場所ではないか。

(霧島市) 始良市の意見に同感。歩いたり、自転車に乗ったりして、全体を貫くようなものがあるととても良いと思う。現状として地域の人口は増えており、現在の国道の安全性等を考えると大きな課題ともなり得るが、満喫プロジェクトはそういった道を検討する上で大きなきっかけである。ブロックごとではなく一体感を持って取り組むべきであり、そうした取り組みが世界の見本にもなるのではないか。

(事務局) 九州を一周するようなルート設定となっている九州自然歩道がある。これは設定から 30 年が経過し、現在再活性化に向けて取り組んでいるところ。他にも、九州オルレ、フットパスなど、遊歩道関係の連絡会議も設置されている。ゆっくりと地域を楽しんでもらうことについては、こういった取り組みとも連携しながら検討できれば。

(九州地方整備局) 国別の訪日外国人内訳についてはその人数をしっかりと把握すべき。とくに 1.現状分析 (2) 当国立公園の訪日外国人の国別内訳に (参考) として示されている数値について、現在のこの案では割合 (%) で示されているが、実際の人数で見ると、数字は伸びていることが分かるし、伸び方も違うことが分かる (例えば、鹿児島県の韓国からの訪日外国人割合は年々低下しているが、人数は増加している。)。割合のみではなく、実数と括弧付きで割合を示すべきではないか。グラフで示すこともよいかと思う。

(事務局) 訪日外国人のデータはプロモーションに影響するものと考えているが、まだプロモーションについては煮詰まっていない状況。実際すすめていく段階に至った際には、しっかり現状を分析した上で進めて行きたい。

(九州地方環境事務所長) ひとつのプランが「何のために」行われるのかという目的を明確にしながら整理するべき。ポイントは以下の 3 点。

1. アクセスについて。インバウンドの人がどこからどう入るのか。アクセスルートが増えてしまうと目的が見えなくなってしまう可能性が高い。クルーズ船がどこから入ってくるのかなど、しっかり押さえておくべき。あわせて「鹿児島よりみちクルーズ」についても入れるべきと考えるが、アクセスルートかビューポイントかは今後検討してほしい。
2. ビューポイントについて。公園の中にとらわれすぎていると感じる。環境省予算でできなくても、連携して取り組めば実行できるのではないか。
3. プロモーションについて。メリハリをつけて示すべき。プロモーションには
 - ①興味をもってもらおう
 - ②行ってみようと思ってもらおう
 - ③もう一回来たいと思ってもらおう

の3点が重要で、それぞれの前に行くプロモーションの仕方は違って来る。仕掛けは地元で行うこととなり、①については素材として政府のツールがあるので活用いただければと思う。

(鹿児島市) 南九州レイルパス普及キャンペーンを現在行っている。北九州では年間8~9万人の利用者がある一方で、南九州では1800人程度。福岡から新幹線等で南九州に来てもらえるようにする必要がある。そう考えたときに宮崎駅は重要と考えた。今示されているアクセスに関しては、北九州から南九州に来てもらうという視点が弱いと思う。

(九州観光推進機構) この地域は魅力のある地域なので一体となって海外に向けて売り出すよう取り組んで欲しい。外に売って出すためのコンセプトはとても重要だが、売るとするのはとても難しい。

・観光案内所については、どこの空港や駅においても、きっちり地域内全てを案内できる体制づくりが重要であると考えます。

(霧島市) CIQ (税関・出入国管理・検疫) 機能の向上を含め、鹿児島空港を気にしてインバウンド効果を高めていくべき。鹿児島空港には現在国際線が就航しているのは4路線(上海、香港、台湾、韓国)で、LCCが参入したことで訪日外国人の利用者数は右肩上がりとなっている。バンコクやシンガポール等のLCCも呼び込めるよう、強化すべき。なお、台湾については宮崎空港と鹿児島空港とで曜日違いで就航しているため、両空港あわせたらほぼ毎日就航していることとなる。両地域で連携した旅行計画の提案等、PRを進めていきたい。

(九州運輸局) CIQは現在異なる役所が担当している。その拡充は緊急課題であって、国際線就航便数の多い空港から、順次定員増をするなどして機能拡大の対応をしているところ。また、国としても特に地方空港を中心に、航空機発着料金の割引や、新規路線就航の支援を行っているところ。LCCについては、利用客数が減少するとすぐに撤退する傾向がある。実際に福岡に就航したエアアジアのバンコク直行便はこの理由で撤退している。利用客数を増やすこと、利用客数を維持することには、国だけでなく地元の協力も必要となる。

(九州観光推進機構) 九州には8つの空港があり、いろいろな空港から九州に入ってもらえれば。

・国際線の就航については、アウトバウンドの需要もないと難しい。実際、九州地区のパスポート所有率が少ないことも課題であり、自治体の皆さんにはぜひ修学旅行の行き先を海外にすることを推奨するなど、対応いただきたいところ。

(霧島市) 海外に旅行しないのに、外国の人に九州に来て下さいと言っても来てはもらえない。国レベルでも高校生になったら、もしくは成人を迎えたらパスポート取得を推進することが必要ではないか。また、全県的にもパスポート取得者に助成金を支払うなどの対応を行った上で、九州全体の空港の利用促進を目指すべきと考える。

(小林市) ビューポイントで行う各事項について、この作業は国・県・市町が行うといった、実施主体案をぜひ記載してほしい。示してもらえれば主体性が高まると思うし、各自治体で持ち帰って、市民の皆さんと話したりもできる。

(事務局) できる限り実施年度と実施主体は示すようにとの意見も出ている。

(5) その他

(始良市) アトキンソン氏視察に関し、29日の高千穂河原から桜島までの移動の間に、重富海岸からのカルデラも見てください。

(事務局) 資料4は予定案なので、提案いただいたことは事務局で検討する。

○鹿児島県環境林務部長挨拶

ステップアッププログラム2020は12月21日に予定されている第3回地域協議会までに作成し、お示ししたい。それまでには各地域部会も開催する予定なので、ぜひ忌憚のない意見を引き続きいただきたい。

(閉会)

別紙：出席者（敬称略）

九州森林管理局 計画保全部長 吉永 俊郎
九州運輸局 観光部長 伊地知 英己
九州地方整備局 企画部 事業調整官 古木 慎一
九州地方環境事務所 所長 北沢 克巳
宮崎県 環境森林部長 大坪 篤史
鹿児島県 鹿児島県環境林務部長 東條 広光
都城市 商工観光部長 中島 幸二
小林市 観光政策参与 矢野 雄二郎
えびの市 市長 村岡 隆明
高原町 まちづくり推進課 花牟禮 秀隆
鹿児島市 観光交流局長 圖師 俊彦
指宿市 観光課長 今柳田 浩一
垂水市 副市長 岩元 明
霧島市 市長 前田 終止
始良市 副市長 久保 力
湧水町 町長 米満 重満
南大隅町 企画観光課長 竹野 洋一
(一社)九州観光推進機構 海外誘致推進部長 坂本 久敏
(公財)みやざき観光コンベンション協会 観光・スポーツランド推進局長 甲斐 裕二
(公社)鹿児島県観光連盟 (欠席)